

5. - 5) 検定結果 57×86 (RC×RIR) コマーシャル (CM♂♀) 27年度

(1) 体重 (表3・4・5、図1参照)

体重は、12・18週齢を全羽数とし、18週齢までのその他の週齢を20%抽出(20羽)として測定した。

「57×86」では、12週齢(84日齢)で♂4.5kg・♀3.5kgという結果となった。また、20%抽出の6~10週齢での体重を考慮し、CMの出荷体重を2.8~3.0kgと想定した場合、♂で54~57日齢程度、♀で65~68日齢程度での出荷が見込まれる。

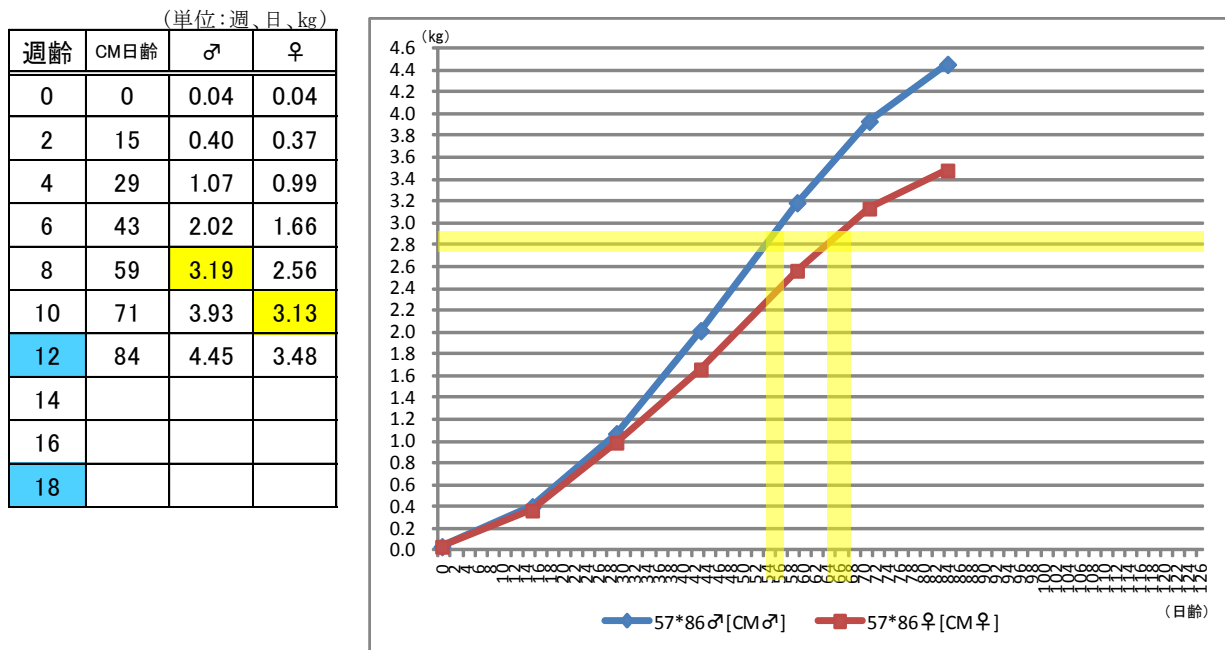
(表3) <57×86♂> 「CM♂」体重の推移

	0週齢	2週齢	4週齢	6週齢	8週齢	10週齢	12週齢	14週齢	16週齢	18週齢
	0日	15日	29日	43日	59日	71日	84日	-	-	-
平均体重(g)	37	403	1,071	2,015	3,187	3,933	4,455	-	-	-
最大(g)	44	445	1,169	2,253	3,580	4,325	5,260	-	-	-
最小(g)	32	369	909	1,838	2,440	3,430	2,945	-	-	-
標準偏差(g)	3.4	17.8	73.1	118.8	283.2	226.1	473.4	-	-	-
変動係数	9.23	4.41	6.82	5.90	8.89	5.75	10.63	-	-	-
測定羽数(羽)	20	20	20	20	20	20	90	-	-	-

(表4) <57×86♀> 「CM♀」体重の推移

	0週齢	2週齢	4週齢	6週齢	8週齢	10週齢	12週齢	14週齢	16週齢	18週齢
	0日	15日	29日	43日	59日	71日	84日	-	-	-
平均体重(g)	37	368	990	1,660	2,564	3,134	3,483	-	-	-
最大(g)	45	414	1,169	2,009	2,898	3,740	4,130	-	-	-
最小(g)	31	330	902	1,296	2,215	2,550	2,520	-	-	-
標準偏差(g)	3.6	24.1	61.2	176.4	182.5	292.9	309.1	-	-	-
変動係数	9.92	6.56	6.18	10.63	7.12	9.34	8.87	-	-	-
測定羽数(羽)	20	20	20	20	20	20	96	-	-	-

※ 上記の表3・4における12・18週齢の全数測定において、発育不良等により極端に低い体重のものは、異常値として集計から除外した。



(表5・図1) <57×86> ♂♀の平均体重の推移

※ 表5の青色部は全羽数、0~10, 14~16週齢は20%抽出。

※ 図1の黄色部はCM♂♀の見込出荷日齢・体重。

(2) 飼料要求率 (表6参照)

CMは不断給餌であり、飼料摂取時の餌溢しが著しく、へい死鶏・淘汰鶏の飼料給餌量も含めた算出とした。

このため、飼料要求率は0~12週齢で「57×86」が♂3.3(給餌量:172g/日/羽)・♀3.4(同:142g/日/羽)となった。

(表6) CM♂♀の0~12週齢(0~84日齢)の飼料要求率

組合せ	性	期末羽数 (羽)	平均体重 (g)	増体量 (kg)	飼料給餌量		飼料 要求率
					(kg)	(g/日/羽)	
57×86	♂	92	4,455	401.7	1,331	172	3.31
	♀	98	3,483	339.4	1,169	142	3.44

(4) 羽色・外貌特徴

ア 0週齢時(羽色のみ(20%抽出)、図2参照)

羽色は、その組合せの中で多く占めている羽色タイプを順に、羽数をカウントすることとした。

CMの「57×86♂」は、全て(20羽中20羽)が羽色タイプI(褐色)であった。

「57×86♀」は、全て(20羽中20羽)が羽色タイプI(淡褐色)であった。



(図2-1) <57×86♂>「CM♂」の羽色



(図2-2) <57×86♀>「CM♀」の羽色

イ 12 週齢時（検定終了時全数、羽色・外貌特徴、図 3 参照）

「57×86♂」は、羽色タイプ I（濃赤色）が 89.1%（92 羽中 82 羽）、羽色タイプ II（褐色）が 10.9%（92 羽中 10 羽）を占めた。外貌の特徴は、何れも体型が肉用種型（コーチン型）、単冠、耳朶色は赤色、脚色は黄色（一部分に褐色が混在）であった。

「57×86♀」は、羽色タイプ I（褐色）が 54.1%（98 羽中 53 羽）、羽色タイプ II（淡褐色）が 45.9%（98 羽中 45 羽）を占めた。外貌の特徴は、何れも体型が肉用種型（コーチン型）、単冠、耳朶色は赤色又は白色、脚色は黄色（一部分に褐色が混在）であった。

<57×86♂> 「CM♂」



（図 3 - 1） <57×86♂>（CM♂）羽色タイプ I の羽色・外貌の特徴



(図3-2) <57×86♂> (CM♂) 羽色タイプⅡの羽色・外貌の特徴



(図3-3) <57×86♂> (CM♂) の飼養状況 (羽色の比較)

<57×86♀> 「CM♀」



(図3-4) <57×86♀> (CM♀) 羽色タイプⅠの羽色・外貌の特徴



(図3-5) <57×86♀> (CM♀) 羽色タイプⅡの羽色・外貌の特徴



(図 3 - 6) <57×86♀> (CM♀) の飼養状況



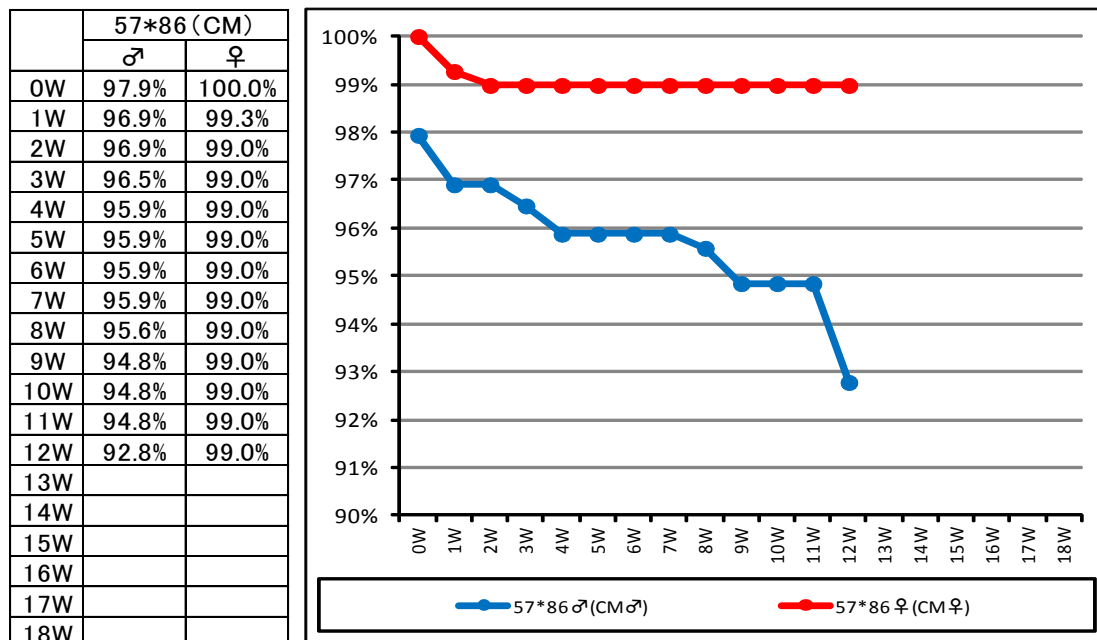
(図 3 - 7) <57×86♀> (CM♀) の飼養状況 (羽色の比較)

(4) 育成率 (表7・図4参照)

特に目立って育成率が低かった「57*86♂」は、4週齢までに弱雛・尿酸塩沈着症などが発生し、その後、8週齢頃から腹水症や心臓病、脚弱の発生により斃死・淘汰され、検定終了時の12週齢(84日齢)の育成率は92.8%となった。

(※見込出荷日齢の54~57日齢頃では96%程度と推察される。)

なお、「57*86♀」については、18週齢までの育成率が概ね98%以上であり、見込出荷日齢での育成率は99%以上と推察される。



- ※ 日齢毎の育成率を各週で平均化した育成率であることに留意。
- ※ 57*86♂♀は0~84日齢(え付~検定終了日)の育成率。
- ※ 57*86♂♀の12Wは84日齢時(1日間)の育成率。
- ※ 傷病によらない淘汰鶏(誤鑑別・事故死・検査淘汰)は、育成率算出より除外(え付羽数から除外)。

(表7・図4) CMの育成率の推移

(6) へい死・淘汰要因 (表8参照)

へい死・淘汰率が高かったのは、「57×86♂」であり、その要因は、特に全身病(弱雛)に係るもの(7羽中2羽)が多く発生し、その他特に目立った症状はなく、検定終了時の84日齢までのへい死・淘汰率は6.9%となった。

「57*86♀」では、特に目立った症状はないものの、弱雛、首曲がり、捻転脚、削そうが発生し、検定終了時までのへい死・淘汰率は1~2%となった。

(表8) CMのへい死・淘汰率(日齢/羽数)

症状	57×86 (CM)	
	♂	♀
脚弱	1.0% (84/1羽)	
趾曲がり	1.0% (25/1羽)	
捻転脚		1.0% (9/1羽)
心臓肥大	1.0% (84/1羽)	
尿酸塩沈着症	1.0% (3/1羽)	
腹水症	1.0% (61/1羽)	
弱雛	2.0% (1~3/2羽)	
計	6.9% (7羽)	1.0% (1羽)

- ※ 「57*86♂」・「57*86♀」は12W(84日齢:H27/6/1)までのデータとした。
- ※ へい死・淘汰率は、え付羽数から事故死・検査淘汰・誤鑑別を除いたものを補正え付羽数とし、その羽数に対する率。